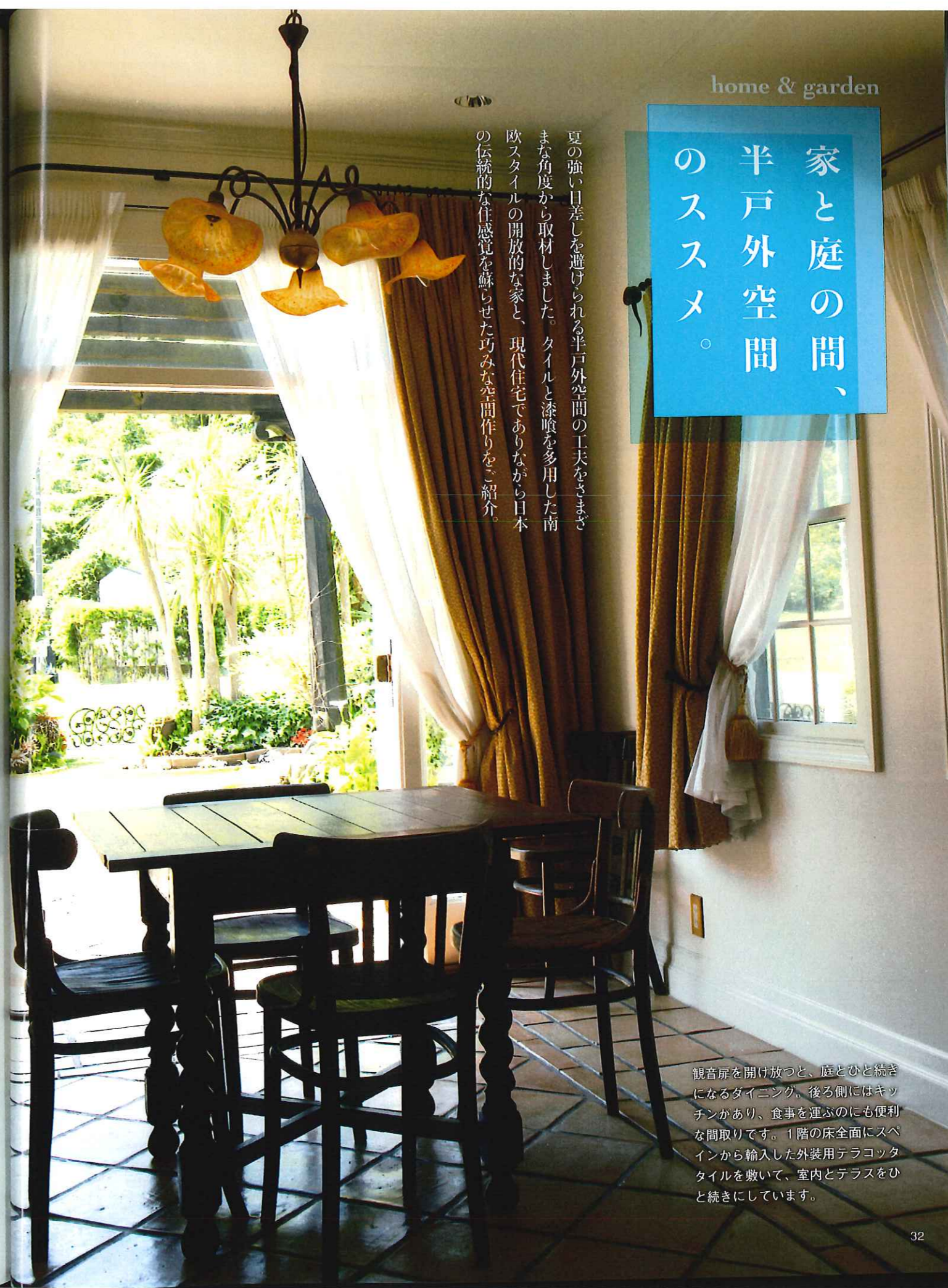


家と庭の間、  
半戶外空間  
のススメ。

夏の強い日差しを避けられる半戶外空間の工夫をさまざまに角度から取材しました。タイルと漆喰を多用した南欧スタイルの開放的な家と、現代住宅でありながら日本の伝統的な住感覚を蘇らせた巧みな空間作りをご紹介します。



観音扉を開け放つと、庭とひと続きになるダイニング。後ろ側にはキッチンがあり、食事を運ぶのにも便利な間取りです。1階の床全面にスペインから輸入した外装用テラコッタタイルを敷いて、室内とテラスをひと続きにしています。



撮影/工藤睦子

上/植栽升を備えたゆるやかなスロープを行くと右側に玄関、左に芝生の庭があります。下/室内の階段にも、屋外の階段(次頁)と同様、蹴込みに模様タイルを貼った南欧スタイル。左/芝生の庭からの眺め。右の階段を上ると海が見えるテラスがあります。

輸入住宅人気を高めた  
開放的な南欧風別荘

千葉県・御宿 宮本邸







右/英国の骨董屋で一目惚れした彫刻が施された扉を庭への出入りに利用。素焼きの大鉢ではスイレンの間をメダカが泳ぐ。上2枚/骨董市で見つけた壺や地元の海岸で買った蛸壺をコーナー飾りや鉢にして、庭のアクセントに。下/化粧室はカーテンやタイルをブルーで統一。



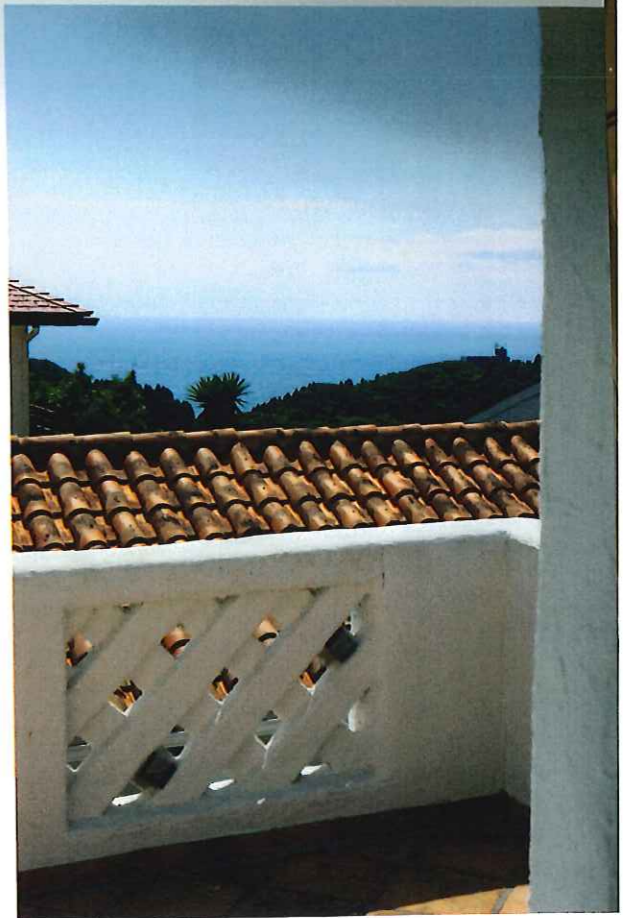
がやって来ると確信し始めた頃、宮本さんからの相談を受けたのでした。しかし当時はまだ、南欧風住宅に必須の素焼きタイルや屋根材など建材の輸入ルートを確保していなかったため、建材の入手さえ可能になれば是非やってみたいと返事をするに留めました。

施主の宮本さんは、つるおか工務店との出会で状況が一変したと当時を振り返ります。「ちょうど息子が建築家志望で英国にいたので相談をしたら、建材の輸入や仕上げ方の情報集めに協力してくれることになって。FAXで何度もやりとりしました」。そうして願いは叶い、建材は滞りなく全て揃い、海外の写真を参考にしながら建築を進めていきました。鶴岡さんの施工知識と職人さんの技によって、手探りながら、日本では未知の領域であった南欧風の家が見事に完成しました。

その後、住宅雑誌にこの家が掲載されると、全国から問い合わせが殺到。つるおか工務店は、今では南欧風に限らず、さまざまなタイプの輸入住宅を手がけ、これまで300棟以上の建築実績を重ねています。



青空に白の漆喰壁が映える南欧風の家。2階テラスからは海が見渡せます。扉を開けたダイニングに座っていると、庭からの風が吹き抜け、心地よい時間が過ぎていきます。千葉県御宿に建つこの家は、築20年になります。今ではガーデンが似合う家としても人気が高まっている輸入住宅ですが、20年前はまだまだ珍しいものでした。「地元の別荘地で輸入建材を使った南欧風の家を建てたいと訪ねてきたお客さまがいました。やがて施主となるその宮本さんとの出会いがきっかけで、私の会社は輸入住宅を得意とするようになっていきました」と話すのは、つるおか工務店を営む、鶴岡敏雄さん。父が大工だったことから建築の世界に入り、2×4工法の建設会社勤めを経て30年前に独立。「当時の日本の住宅は、台所は暗くて寒いのが普通でしたが、外国映画に出てくるキッチンが明るくて、憧れましたね」。これからは洋風住宅の時代

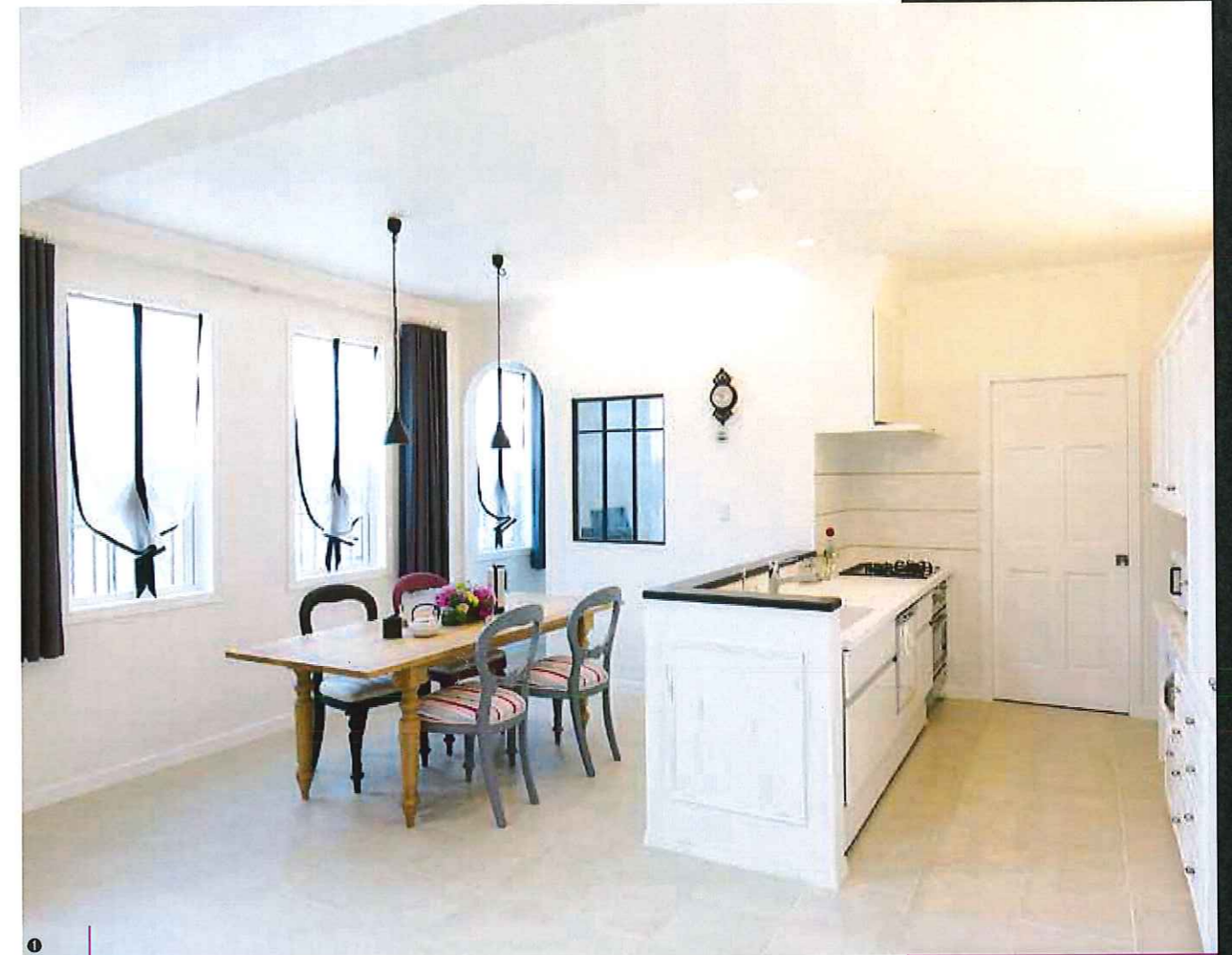


上/2階テラスから白浜で有名な御宿の海が見えます。元日、ここから初日の出が見える絶景ポイント。左/天井も壁も全面、白い漆喰塗装で明るいテラス。下/庭から2階へ行き来がしやすい屋外の階段。壁や手すりを格子状に開けたデザインは、海外の写真を見て大工さんが手作りで再現。





真っ白な壁に陽光が強くあたる。  
ご家族4人のイニシャルRLYTで構成された  
黒いアイアンが強いアクセントとなって、衆目を集めるY邸。  
随所にパリをイメージした施主のこだわりにも、  
長年にわたって輸入住宅を手がけてきた「つるおか工務店」。  
たくさん経験から繰り出される技術とセンスでパリのお家を実現しました。



## パリをイメージして細部にこだわった スタイルのある輸入住宅

千葉県袖ヶ浦市Y邸

- ①白で統一されたキッチンとダイニングの向こうには奥様のワークルूमを置いた。黒い木枠にアンティーク風の押ガラスを通して家族の気配を感じられる
- ②真っ青な空に浮かび上がる白いY邸の外観。ご家族のイニシャルRLYTをデザインしたアイアンはわざわざ海外でオーダーメイド
- ③パリをイメージして白と黒、グレーの室内のアクセントにボルドー(紫)のレースカーテンを採用







6



8

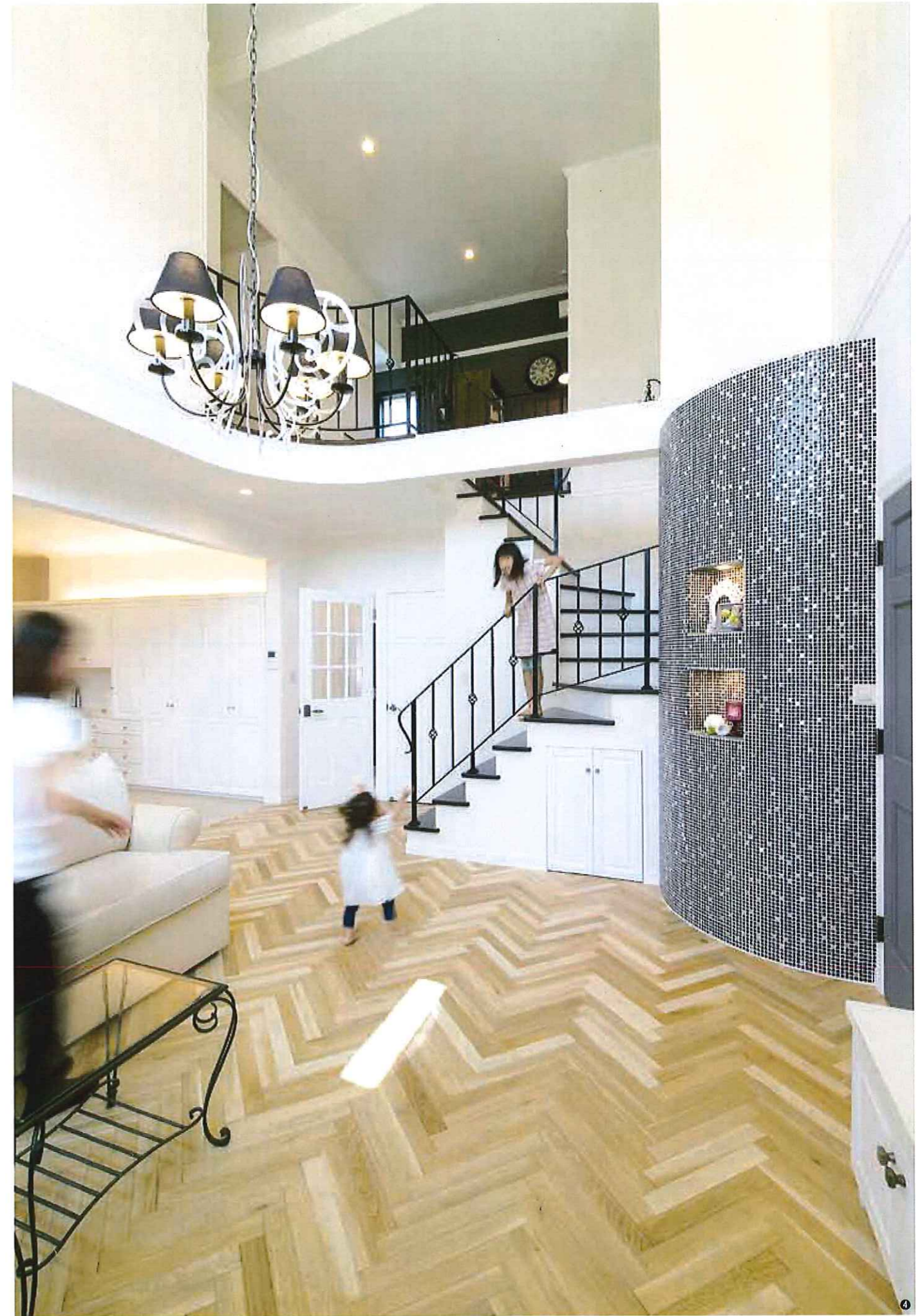


7



9

④アールの壁にはガラスモザイクのタイルを採用してリビングの強いアイコンとなった。デザインにこだわった階段アイアンの手すりもオリジナルで中国にて製作したもの  
 ⑤無垢のオーク材をヘリンボーン貼りで仕上げた床には床暖房をほどこしてある。壁は自然素材の珪藻土を使用した  
 ⑥外観と同様にこの家のアクセントは黒のアイアン。階段の手すりにも採用してオシャレ感アップ  
 ⑦1階和室。壁はDIYで珪藻土を、漆島畳と天井には和紙クロス、竹を採用した。床柱は新木場で錆丸太を選定したほどのこだわり。すべてに本物を集めた和室になった  
 ⑧ステップをつけたバスルームはご主人のこだわりだそう。背のカーブがフィットするジャクソンのバスタブを採用。窓の外の竹を鑑賞しながら半露天風呂のように楽しめる  
 ⑨柄物の輸入壁紙をポイントに、「安価な家具」をDIYで加工して手洗い台に。ペーパーホルダーも黒で引き締めた



4

DATA

敷地面積 333㎡ (100坪)  
 延床面積 / 118㎡ (35.75坪)  
 1F / 130.01㎡ (39.32坪)  
 2F / 33.53㎡ (10.14坪)  
 用途地域 / 第一種低層住居専用地域  
 構造 / 木造ツーバイフォー  
 間取り / 4LDK  
 設計・施工 / (有)つるおか工務店  
 インテリアコーディネート / Y's style 矢島由紀子  
 家族構成 / 4人

MATERIAL

外部仕上げ  
 屋根 / ガルバリウム鋼板葺き  
 外壁 / ジョリパッド、一部タイル貼り  
 主要内部仕上げ  
 床材 / オーク材(リビング)、  
 バイン材(子供部屋)一部テラコッタなど  
 壁 / 珪藻土、輸入壁紙など  
 天井 / 珪藻土など

有限会社 つるおか工務店

〒299-5102  
 千葉県夷隅郡御宿町久保2039  
 TEL : 0470-68-4848  
 FAX : 0470-68-5499  
 http://www.daiku.co.jp



# 館山定住

## ガイドブック

ど館山に住んでから  
どう暮らすか?

たてやまに  
お家を  
建てました!

富山潤一郎さんご一家



2015  
保存版



移住者にお話を伺いました >>> 特集 移住体験談

館山市広域マップ  
& 地区別ガイド付



館山ならではのライフスタイルってなんだろう。

緑ゆたかな里山で深呼吸できること?

それとも、いつだって海が見渡せること?

一年中咲かせている花に心ませ、

時折、息を呑むほど美しい夕日に会うことだってある。

だけど、ここで暮らす人たちにとって、

それらは日々の生活のおつりみたいなものかもしれない。

館山ならではの本当に幸せなライフスタイルは、

人との関わり合いの中にある。

住む人が互いに支え合い、笑顔を生む力が館山にはある。

だから、わたしたち館山市民は笑顔で呼びかけます。

あたらしく住むまちを探す人へ、

## 住もうよ! たてやま

これらの写真は「笑顔で移住者を迎えよう」キャンペーンのもと開催された

「たてやまライフフォトコンテスト2015」の入賞作品です。

館山暮らしの楽しさが伝わる笑顔の写真をテーマに81点の応募があり、

館山市長らの審査により14点の作品が選ばれました。



住んでからを  
考えるまち

館山定住ガイドブック 2015

発行/館山市 制作/NPO法人おせっ会





# 館山に住んでから どう暮らす？

富山 潤一郎さん  
とみやまじゅんいちろう

館山市内に  
一戸建て住宅を新築

移住体験談

1 家

館山へ移住してから5年間ほどの借家住まいのち、じっくり探した理想の土地に念願の家を建てました。移住先で家を建てるということは、その土地に定住することの決意の表れともいえます。富山さん一家がどのようにして館山と出会い、理想の暮らしを手に入れたのか、お話を伺ってみました。



族4人で海辺の暮らしを満喫している富山潤一郎さん(40)一家。

## 移住者にお話を伺いました

- 1 住まいづくり
- 2 まちづくり研究
- 3 起業

輸入住宅  
(有)つるおか工務店

〒299-5102 千葉県夷隅郡御宿町久保2039  
TEL. 0470-68-4848(代) FAX. 0470-68-5499  
ホームページ <http://www.dalku.co.jp>

### ゆとりある暮らしを求めて

「今の生活には満足していません。思い描いていた暮らしが実現した感じですね」  
そう語るのは館山市内で福祉関係の仕事をしている潤一郎さん。まだ木の香りがする真新しい家で、妻の由紀さんと2人の娘さんの一家4人で館山暮らしを楽しんでいます。富山さん一家が館山に越してきたのは6年ほど前のこと。長女花楓ちゃん(8)がようやく1歳になろうとしていた頃でした。

たことにあります。当時も今と同じ福祉関係の仕事でしたが、責任の重い役職についたことで仕事はさらに忙しくなり、思い返せば働き詰めの生活だったといえます。仕事そのものはやりがいもあり、給与面での不満もなかったというものの、疲れはたまり、趣味のサーフィンからも遠ざかる一方でした。そこで由紀さんと話しあった結果、子育てのことも考えて、のんびり暮らせる場所に移り住もうということになりました。

気軽にサーフィンを楽しみたいと候補に挙がったのは、湘南や外房など。あちこち見て回るなか、館山市のNPO法人主催の移住体験イベントに参加しました。時々サーフィンで訪れていた館山は土地勘があったこと、イベントを通して移住後の生活がなんとなくイメージできたことなどが決め手となり、移住先を館山市の南端に近い海辺の集落に絞りました。慢性的な人材不足の福祉関係の仕事というところもあり、仕事はすぐに見つかりました。NPO法人の協力を得て、安く貸してくれる家もそれほど時間をかけずに見つけることができたといいます。

「仕事と住む場所さえあれば、どうにでもなると思っていました。細かいことは後で考えればいいや、と。当時はかなり楽天的でしたね」と潤一郎さん。そして平成21年3月、富山さん一

### ここに家を建てよう!

そんな富山さん一家が家を建てることを決めたのは、潤一郎さんの転職がきっかけでした。「新しい職場は移住者への理解のある環境で、多忙ではありませんが給与面では安定しました。それまで住んでいた借家も手狭になってきたし、住み替えるなら新しく建てようかな、と」  
言うのは簡単ですが、家を建てるにはそれなりの覚悟が必要です。4年間ほど館山で生活してみて、この土地で暮らしていく覚悟ができていたというの大きな理由なのでしょう。こうして家づくりの計画が始

### 新生活のはじまり

家は家族3人で館山市に転居しました。移住を考え始めてからわずか10カ月後のことでした。

館山での新しい生活は順調にスタートしました。近所の人たちは温かく迎え入れてくれ、職場にもすぐに慣れました。

「正直に言うと給料は3分の2ほどに減りました。妻のパート収入と併せて贅沢しなければどうにか暮らしていける額です。それよりも自由な時間が増えたのがうれしかったですね。時間にゆとりができたことで、家族と過ごす時間も増えまし

まりました。地元の知人や不動産屋に声をかけ、じっくり探して見つけた土地は、当時の借家から1km以内の場所。土地を決める際、迷いはあっても不安はほとんどなかったといいます。

「土地探しで大事なことは、その土地での生活をどれだけしっかりとイメージできるかということ。うちの場合はすぐ近くに4年間ほど住んでいたの、周辺地域の予備知識は十分にありました。最終的には古くに開発された別荘地の一画に決めましたが、いい面も悪い面も含めてこの土地での生活をだいたいイメージできていました」

そこで暮らすイメージができれば、家の間取りや設備などにも反映することがあります。そしてついに、思い描いたとおりの理想の家が完成しました。

### 理想の生活が現実

こうして完成した新居は、パステルグリーンの外壁がいかに涼しげな平屋建て。玄関回りに大きく張り出した庇や、庭に植えられたヤシの木が、リゾート気分を盛り上げます。開放的なリビングルームでは2人の子どもたちが元気に走り回り、広々としたウッドデッキからは、足もとに広がる田園風景の先に平砂浦の海が見えます。も

「別荘地とはいっても半分くらいが定住世帯。住民の意見がまとまりにくいという難しさはあるみたいですが、でも、ご近所さんとの関係はまずまず良好。住み心地はいいですよ」  
理想の土地に建てた理想の家。そんな新居での生活は快適そのもの。存分に楽しんでいるようです。

富山さん一家もここでの生活に不満や不安がないわけではありません。たとえば近くに小児科が少ないことなどは、これから少しずつでも改善されればと考えています。東京に住む両親のことも、いつか真剣に向き合

### 館山を故郷に

わなければいけない日が来るかもしれません。それでも、それらを差し引いても余りある豊かさがあることにあります。

「子どもたちにとってはここが故郷。ずっと住み続ける覚悟はできています。あとは好きなことをしながら暮らしていければ」と笑う潤一郎さん。富山さん一家の館山暮らしは、ますます楽しいものになりそうです。

右)景色を眺めながら飲むビールは最高というウッドデッキ。広々としたスペースが確保されており、友人を招いてのパーティーでも大活躍しているそう。知り合いから格安で譲ってもらったヤシの木も潤一郎さんのこだわりのひとつ。



上) 近くのサーフポイントへはバイクで3分ほど。わずかな空き時間でも気軽にサーフィンを楽しめる環境。下左) 間取りや設備には趣味をしっかりと反映。新しい表札に定住の意思が見える。中右) 表札の横には「ただ今サーフィン中」の洒落っ気あるプレートが。下右) 長女の花楓ちゃんも新居には大満足。